



だいや川通信

今市の水を守る市民の会

第24号

2007年5月16日(水)

今市は水の里 次の世代へ残せるものは？

すっかりご無沙汰してしまいました。昨年は会としての活動が十分にできませんでした。事務局レベルでは何度が集まりを持ち、会の名称のことや、今後の活動について話し合っていました。会の名称の問題は今市市が合併して日光市になったことにともなって起きてきました。しかし、県の四分の一を占めるといわれる日光の名をつけるのはちょっと無理もあり、時がたつにつれて、むしろ今市という地名を積極的に残したほうが良いのではという意見が大勢を占めるようになってきました。

そんなわけで、とりあえず会名はこれまでのまで行きます。活動のほうも「新日光市の川めぐり」とかいろいろ考えてはいるのですが、当面、会を中心に支えるスタッフ陣がさまざまなほかの活動や運動で手一杯になっており、独自の活動を行っていくのが難しくなっています。

しかし、せっかく作られた会を休止、または解散するのも残念なので、月一回の定例会を維持して「今市の水」について考え、また今後の活動の方向を探っていこうということになりました。この定例会は現在、中心的に事務局を担っているスタッフの都合を優先するため毎月最後の(第4または第5)水曜日の午後12時30分から2時です。(場所は日光市民活動支援センター)

きわめて変則的な時間で参加できる方も限られるかと思いますが、趣旨としてはできるだけ開かれた会にしていきたいと考えていますので、会員の皆さんにはお時間が許す限り気軽に参加していただければと願っています。

最後にちょっと個人的な話になりますが、3月末から4月初旬にかけてフランスを駆け足で旅行する機会に恵まれました。ニースからバスと列車を乗り継いでパリまで行きました。車窓から見た程度ですがフランスの農村部の景観の美しさが印象に残りました。まさに農業大国だと感じました。しかし最近になって日本の農村もフランスに負けないすばらしい景観を持っていることに気が付きました。それはむせ返るように新緑に彩られた里山と田んぼに水が入ることであち現れる風景です。この景観をこれからも守ることができるかどうか極めて大きな問題です。(森)

目次:

水の会、再起動 1

美味なる物 2

シモツケコウホネ 3

南摩で
やまなしのお花見 3

どんど焼きの
次を楽しみに 4

お知らせ

川むしたんけん隊

5月26日(土)

詳しくは2ページ



会員のみなさまへ

昨年度はほとんど活動ができなかったにも関わらず、多くの方から会費の払い込みがありました。昨年は休止状態だったことをふまえ、昨年度の会費払い込みは、今年度の会費として繰り入れさせていただきますので、ご了解下さい。

また、昨年度の支出はホームページ管理費のみです。これも今年度の支出に加えさせていただきます。

会員のみなさまには、引き続き本会のご支援をよろしくお願いいたします。

昨年2月
田川ゆったりウォークにて



たんにわ

サイエンス・カフェ

川むしたんけん隊

協力：今市の水を守る市民の会

川の中にはどんな生き物がいるかな？ のぞいてみよう！

おさかな：ヤマメ、ウグイ、カジカ

かわむし：カゲロウ、トビケラ、カワゲラ、ヘビトンボ

川の中に入り、川むしをさがしてなまえをしらべたり、お話をきいたりします。
川に入れる服装・靴・着替え お持ちなら：虫めがね、ピンセット、箱めがねなど

川に入れる服装・靴・着替え

お持ちなら：虫めがね、ピンセット、箱めがねなど

日時:2007年5月26日(土) 雨天中止

午前10時 現地集合～午後2時

場所:行川(明神駅近<・地図参照)

- 昼食は持参してください。
- 小学生は大人同伴でお願いします。

- 小学生は大人同伴でお願いします。

主催:NPO法人 なんとなくのにわ

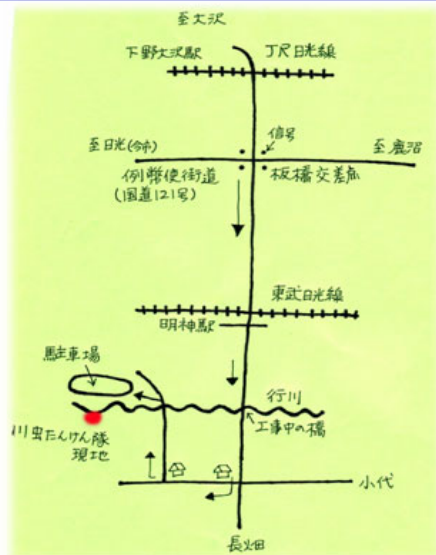
<http://www.nantonakuno.net/>

後援:日光市教育委員会

参加費: 200円 (保険料など)

お問い合わせ: 手塚 (電話/FAX 0288-21-2631)

「なんとなくのにわ」は毎週火曜日、金曜日、
報徳市市振興会館で午前10時から午後4時まで
「子どもの居場所」を運営しています。
火・金のこの時間、申し込みを受け付けますので、
電話 0288-21-3517(会館)へご連絡ください。



今、喰うからウマイ…。

そんな食べ物？がある。芽吹き頃になるとやたらと川のほとりや山の斜面、山道の草むらが気になるのだ。

まずは、ふきのとうに始まって、こごみ、たらっぺ（タラの木の芽）、こしあぶら（地元ではシラキ、トリアシなどともいう）、みずな（うわばみ草）、しどき（モシゲガサ）などなど…。生つばゴックンのA級食材ばかり。天ぷら、おひたし、油いため、一夜漬けなど、どれも美味しいのだ。アクの強いものもあるけれど、それも味のうち。ホロ苦さ、青くささも、それが自然の隠し味…。

幸いにも私の住んでいる日光市は、山あり川ありまさに自然の宝庫。少し移動すれば、これらの美味なる物がカンタンに手に入る場所なのだ。天気の良い日におにぎりとお茶をリュックにほうり込み、川のほとりをぶらぶら歩きすれば、天ぷら、おひたしの一品ぐらいの食材はすぐに手にすることができる。

この今ある自然？ と向き合って生活できたらいいなー、なんて、しどきの一夜漬けを食べながら、この文を書きました。

(隅)

(隅)

NPO法人「なんとなくのにわ」のイベントに協力し、「川むしたんけん隊」を行います。

参加申込(FAX兼用)

0288-21-2631 (手塚)

0288-26-3324 (塚崎)

夏から秋にかけて、「日光川めぐり」などのイベントを企画予定です。ご期待ください。

写真は2005年6月、
大谷川での
川むしたんけん隊のようす



シモツケコウホネ近況

シモツケコウホネについてはこの通信でも紹介したことがあるが、昨年夏、新聞紙上などで大きく取り上げられたのでご存知のことと思う。コウホネの保全に関してはシモツケコウホネと里を守る会(代表 柴田由子 以下「里を守る会」と略す)などが活動が続けている。3月17日(土)には小代のコウホネ自生地で「里を守る会」がコウホネの間引きと移植をおこなった(右写真)。

コウホネは冬になると葉もほとんどなくなり地下茎だけになる。これまでは水路の流れを妨げるため、ほとんどが除去されてきていた。だが、たまたま残っていたコウホネが稀少種であることがわかってきたこともあり、ここ数年ほとんど除去されなかったせいか、地下茎が過密状態となってしまった。そこで今回の間引き、移植となったわけである。当日は那須塩原市や、小山市など遠方からも熱心な会員が集まって熱気あふれる移植作業となった。実際に水に入ってみて驚いたのはコウホネの地下茎のたくましさ。とても簡単に切れるようなものではない。その上、地下茎は三重くらいに絡み合っていて、間引きの必要性を改めて痛感した。

なお、小代地区では今年の冬から圃場整備事業が開始されるが、これに先立ち「小代地区環境配慮整備



3月17日・コウホネの間引きと移植作業

検討会」という長い名前の検討会が県によって作られている。座長は宇都宮大学農学部教授の水谷正一氏。現在おこなわれている環境保全対策調査を踏まえて工法などの検討がおこなわれていくことになる。「里を守る会」もこの中の維持管理部会にかかわっている。この検討会は公開の原則なので興味のある方はぜひ傍聴していただきたい。

詳細は「里を守る会」(0288-27-0923・柴田)または当会連絡先まで。(森)

南摩でヤマナシのお花見会 ―― 自然観察と昔話を聞く会

主催：思川開発事業を考える流域の会・ムダなダムをストップさせる栃木の会
日本野鳥の会栃木県支部
協力：水環境条例制定ネットワーク



「ホー—ホペチョ・・・」思わず頬をゆるめたくなる声の主に迎えられた場所は、鹿沼市上南摩町栗沢(あわさわ)。4月29日にここで開かれた会には50名近くの参加があり、鳥・蝶・植物・水生昆虫を観察したのち満開のヤマナシの下でお弁当を開き、昔話に耳を傾けました。沢のほとりに立つ一本のこの大きなヤマナシはかなりの樹齢になるのでしょうか、20メートルほどの高さがあり、枝枝の先にまで真っ白な花をたくさん咲かせていました。山の中でこれほど立派なヤマナシに出会えるとは想像もしていませんでしたので、参加者からも感嘆の声があがっていました。宮沢賢治の世界がここには広がっているのです。柔らかな緑に包まれて、たくさんの人と静かな時間を共有することがこんなに気持ちの良いものだったとは！ 久々にいい一日を過ごすことができました。

栗沢は南摩ダムの水没予定地になっています。背後に深い山を持っているわけではないので沢の水も多くはありませんが、このヤマナシの木のそばには2年前まで人が生活していました。コンクリートの土台が草むらにまだしっかり残っています。ここから前方の山に目をやると、はるか上の方にダムの水面を表す赤と白の標識がありました。大芦川の水を導水したとしてもこの位置まで水を溜めるには一体どのくらいの年数が必要なのだろう、そもそも水は溜まるのだろうか、と正直不思議に思いました。人口が減少していく時代に水の溜まらぬ巨大ダムを造るのは、まさに税金の無駄遣いに思えてなりません。こうして現地に立ってみるとさまざまな疑問が湧いてきます。



このヤマナシの実熟すと7センチほどになるそうです。今年は大収穫が予想され、会では秋にまた同じ企画を持つそうですので、たくさんの人に参加してもらい、この木の生命力を体感して欲しいと思っています。加えて、「今市の水を守る市民の会」会員の皆さんにはこの木がこのまま栗沢でいつまでも生き続けていけるよう、「ムダなダムはいらない！」の声をこれからも発し続けてくださるようお願いします。(塚崎庸子)

—2007年を迎えて— どんど焼きの次を楽しみに

小正月を明日に控えた日曜日、偶然通りかかった道で懐かしい光景と出会った。子供達の姿をたくさん見かけたのだ。小学校の高学年らしい子供達は友と連れ立ち、また幼児は親に手をひかれてそれぞれ同じ方向に歩いて行く。それらの子供達の様子がとてもウキウキしているので集まっていく方向に目をやると、そこには竹と杉を高く掲げて作ったものが田の中にしつらえてあった。どんど焼きだ。この竹や杉は民俗学で「小屋」と呼ばれるもの。子供達は手に手に繭玉飾りを持ってこの「小屋」に集まって来ていたのだった。

近年、ダイオキシン問題が大きく騒がれていたのも、どんど焼きはもう途絶えてしまったとばかり思っていたのだが、こうして今年、間近に目にすることができてとても晴れやかな気分になされた。たしかにこの「小屋」にはプラスチックの正月飾りは一つも寄せられていなかったから、その素朴な姿はかえってすっきりとして新鮮に映った。時代を読み取る工夫がこの地域にはなされていたからである。夕方になるのを待ってここでは火が焚かれたことだろう。子供達はどんな様子だったろうか。

もう一つ別の場所でのどんど焼きは、夕方、燃え盛る「小屋」のめぐりで地域の大人達と一緒に飲食をしている子供達の姿を見た事だった。闇が深くなっていく時、勢いある炎と共に大勢の大人に見守られながら過ごす事は、現代っ子にはとても大きな出来事であったに違いない。子供時代に刻まれた思い出は何歳になっても蘇ってくるもの、普段の暮らしでは絶対に体験出来ないこの夜の行事は、子供達の心に深く、温かく根付いていったことと思う。

工夫をすれば、昔から伝えられてきた年中行事はこ

郵便振替口座

00140-4-535550

連絡先

〒321-1102 今市市板橋1732-1 森 方

今市の水を守る市民の会

0288-27-2183 (8時～17時:森)

0288-26-3324 (17時～21時:塚崎)

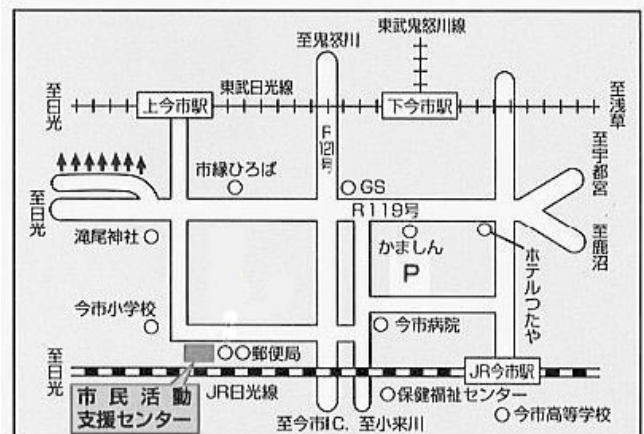
<http://www.somesing.net/daiyagawa/>

れからも続けられるのではないか。日本という風土、今市という風土、その奥に流れる心は現代っ子にも必ず感じ取ってもらえるものがあると思っている。最近ではなかなか体験できない、地域に密着した行事や遊びの復活を望みたいものである。子供達に向けての川遊び・野遊び塾として、ささやかでも当会がかかわっていただけたらと思ってしまったのも、久しぶり見たどんど焼きに触発されてのことだった。(塚崎庸子)

次回の定例会

5月30日(水) 午後12時30分～2時

日光市民活動支援センター



編集後記

久しぶりに「ファール昆虫記」を読み直している。最初に読んだのは、小学5年の頃、学校図書館にあった子ども向けのものだった。何巻あったかよく覚えていない。本棚から次々に借りて読み、昆虫の謎をファールが独特の語りで解いていく、その面白さに夢中になった。最後の巻を読んでいたとき、そのシリーズの続編が出たという夢を見た。読み終えてファールと別れてしまうのがそれほどつらく感じたのだ。その後、学生時代に岩波文庫版を手にとった。小学校の時ほどの鮮烈な印象は残っていない。けれど、実験と観察を執拗に繰り返し、その事実から進化論に異議を唱えるファールに、なんだかすごいなあと思った。文庫本はどこかに行っちゃい、いまは岩波書店から出た全10巻が本棚に積んである。読んでみようと思っただけで、寝転がって読むのにはやはり文庫本がよい。そこで本屋で文庫本を数巻買い読み始めた。第1巻は有名なスカラベ(フンコロガシ)で始まる。次に狩人蜂の細かい観察が記述されており、何度読んでも迫力がある。蜂は数キロメートルも先の巣に戻ることができる。それなのに、土手に作られた巣の入り口を壊してしまうと、巣がどこなのかわからなくなってしまう。蜂が自分の巣を「覚えている」と思うのは人間の自由だけれど、蜂の記憶は私たちがふつうに使っている「記憶」という言葉と違っているとファールは言う。そんな昆虫の話の合間に、「研究者は税金を使い、昆虫の死体を調べたりしている。そんなことをするより、草原や林に出れば気分が良いし、研究テーマは無数にあるのに」とぼやくファールは、一生貧乏暮らしだった。(T)